

〈原著〉

特別養護老人ホーム入所者の食事満足度に影響を及ぼす 配偶者との死別経験についての検討（第2報）

吉 田 真 弓（天使大学 看護栄養学部 栄養学科）

山 田 美智子（慈啓会養護老人ホーム）

角 張 敬 子（慈啓会病院）

藤 井 義 博（藤女子大学 人間生活学部 食物栄養学科）

目的：従来、配偶者との死別経験が食事満足度にどのように影響しているのかは全く検討されていない。そこで前報では、特別養護老人ホーム入所者の主観的な食事満足度に影響を及ぼす配偶者との死別経験の影響について検討し報告した。本報では、対象者を増やしてさらなる検討を行った。

対象と方法：札幌市内の特別養護老人ホーム3施設の入所者81名を対象とした。施設入所者の食事満足度について、多角的に調査できるよう構成された32項目からなる食事満足度調査票を使用し、個人面接調査を行った。個人面接調査は、施設と全く関係がない管理栄養士5名が行った。食事満足度調査質問32項目について配偶者の死別経験の影響を検討するためにウイルクソンの順位検定を行った。

結果：配偶者との死別経験者は、「食べ慣れた味付け、料理はうれしい」、「施設入所で満足」において、非経験者よりも有意にスコアが高かった。男性の死別経験者は、「いつもの食事の楽しさ」、「行事食の楽しさ」、「自分の誕生日は特別」において、男性の死別未経験者よりも有意に高いスコアを示した。女性の死別経験者は、「食べ慣れた味付け、料理はうれしい」において女性の死別未経験者よりも有意に高いスコアであった。女性の死別未経験者は、「行事食の中で自分の誕生日を1番楽しみにしている」において女性の死別経験者よりも有意にスコアが高かった。男性の死別経験者も、「行事食の中で自分の誕生日を1番楽しみにしている」において女性の死別経験者よりも有意に高いスコアを示した。女性の死別経験者は「献立内容の把握」、「うるさくて食事に集中できないことはない」において男性の死別経験者よりも有意に高いスコアであった。女性の死別経験者のうち、入所期間が8年以上の入所者は、「行事食の好物」、「行事食の待ち遠しさ」、「職員から大切にされている」、「食事は期待通り満足」、「施設入所で満足」において入所期間8年未満の入所者よりも有意に高いスコアを示した。

結論：配偶者との死別経験は、施設入所高齢者の食事満足度と主観的QOLに有意な影響を及ぼしていることが示唆された。

キーワード：特別養護老人ホーム、施設入所高齢者、死別、食事満足度

1. はじめに

わが国の高齢化率は、1950年は5%に満たなかったが、1970年には7%を超え、1994年には14%となり高齢社会となった。2010年は22%と、5人に1人が65歳以上の高齢者となっている。そのうえ、今後も高齢化

は進行し、2030年には32%、2055年には41%に達するものと推計されている¹⁾。高齢者の増加は、わが国は男女とも世界有数の長寿国であることを意味するが、2009年度の日本人の平均寿命は、男性79.59歳、女性86.44歳²⁾であり、男女間で約7年の格差がある。このことが、配偶者との死別経験をもつ高齢女性の増加を

招いている。すなわち 2005 年の国勢調査報告によると、15 歳以上の人口のうち女性の死別経験率は、65～69 歳では 19.9%、75～79 歳では 45.5%、85 歳以上では 84.3%に達しているが、男性は、65～69 歳では 5.0%、75～79 歳では 12.4%、85 歳以上では 34.2%であった。このように男女とも高齢になるほど死別経験率が高くなるが、女性の割合は男性に比べて飛躍的に高くなっている。

死別経験のある女性高齢者は、人生において最も辛かったこととして夫との死別をあげており³⁾、死別経験のある高齢者全体の 7 割が配偶者との死別を大きな衝撃として受け止めていることが指摘されている⁴⁾。また、日常生活の中で、孤独感は死別後何年経っても変わらず^{5)~7)}、配偶者喪失における精神的課題は一過性のものではなく、長期的課題となる場合があるともいわれている⁸⁾。

特別養護老人ホームの入所者には、配偶者との死別経験した高齢女性の割合が多く、またその死別期間も長い場合が多いことから、多くの入所者の QOL は、死別後の悲嘆の影響を受けているものと推定される。しかし、入所者についての死別経験と QOL や食事満足度との関連についての研究は、前報⁹⁾以外は全く行われていない。そこで本報では、高齢者の主観的 QOL を個別的に高くかつ維持することの重要性に鑑み、配偶者との死別経験が施設入所者の食事満足度にどのような影響を及ぼしているかをさらに分析することを目的として、特別養護老人ホーム入所者の調査研究を実施した。

2. 方法

(1) 食事満足度調査票

食事満足度調査票は、1) 施設満足度、2) 施設ケア満足度、3) 食事摂取時内容的満足度、4) 食事摂取時環境満足度、5) 食事摂取時体調的満足度、6) 食事摂取時総合的満足度、7) 食事摂取前後満足度、8) 食事関連イベント満足度、以上 8 つの質問項目から構成されている。

調査票の中で使用する言葉を次のように定義している。

〔いつもの食事〕 施設に入所してから今まで日常的に食べている食事全般を意味する。行事食以外の食事。

〔行事食〕 施設で実施されている 1 年サイクルの特別な行事の食事。

〔介護ケア〕 毎日の身の回りのお世話、または具合が悪い時のお世話など。

面接式食事満足度調査票は、上記 8 つの質問項目を網羅する 32 項目の質問内容から成り立っている。

(2) 回答者と回答方法

1) 回答者

回答者は、調査協力が得られた札幌市内の特別養護老人ホーム 3 施設の全入所者の中で、施設職員により以下の 4 条件を満たすと判断された 82 名の入所者とした。

① 調査の趣旨を理解した上で調査協力が得られた人

② 調査項目に回答することが身体的かつ精神的負担にならない人

③ 面接調査員とのコミュニケーションが可能である人

④ 言葉による意思表示が不十分であるが、非言語的手段による意思表示が可能な場合は、その家族または担当職員が同席して回答が得られる人

配偶者との死別経験者は、夫に死に別れて再婚しない女性および妻と死別して再婚しない男性とし、死別未経験者は、配偶者が生存している既婚者および婚姻経験の無い独身者とした。

2) 回答方法

個人面接式調査は、施設と全く関係がなく、管理栄養士の資格を有し、本研究の趣旨や内容を理解し、かつ高齢者とのコミュニケーションを円滑に図ることができる 5 名で行った。事前に調査に関する打ち合わせを行い、5 人が同じく対応できるよう確認した。面接場所は、施設内の回答者の部屋(個室または同居部屋)、食堂、ラウンジなどで行った。入所者への個人面接式調査および回答者に関する属性、健康状況、食事状況などについて、2 施設は 2006 年 8 月から 9 月までの約 1 ヶ月間で行い、1 施設は 2007 年 9 月上旬の 4 日間で実施した。以上のような方法で横断的調査研究を行った。

3) 包含基準、除外基準

上記の包含基準を満たした回答者 82 名のうち、実際の面接式食事満足度調査の質問に対して、全く答えられなかった 1 名を除外した。このように包含基準、除外基準を適用した結果、解析には 81 名を採用した。

(3) 分析方法

食事満足度調査票の回答項目は、以下のように再コード化を行い、回答項目の点数化を行った。

回答項目は、「ぜんぜんあてはまらない」(1 点)、「ほ

とんどあてはまらない」(2点)、「何とも言えない」(3点)、「ほぼ当てはまる」(4点)、「全くそのとおり」(5点)と頻度を答える「毎日」(1点)、「週に数回」(2点)、「月に数回」(3点)、「年に数回」(4点)、「全くない」(5点)の2種類あり、それぞれ5段階に分かれて点数が高い程、満足度が高いことを示す。以下の3項目(1、2、15)は、回答が3つに分かれるため、統計処理の都合上まず2段階にまとめ、そして5段階の尺度と同等になるように、満足度が高い方を4.5点、低い方を1.5点とした。

1. サービス期待序列：食事が1番→4.5、それ以外→1.5
2. サービス満足序列：食事が1番→4.5、それ以外→1.5
15. 行事食楽しみ序列：誕生日が1番→4.5、それ以外→1.5
18. の回答内容は、満足度の高低が反対になるため、点数をリバースした。
18. 献立内容の把握：毎日1→5、週に数回2→4、月に数回3→3、年に数回4→2、全くない5→1

食事満足度調査票の解析は、全て統計パッケージソフト SPSS Ver 15.0 を用いて行った。食事満足度調査結果 32 項目について、配偶者の死別経験の有無別、死別経験者の性別、死別経験がある女性の入所期間別(8 年未満と 8 年以上)にウイルクソンの順位と検定を用いた。p 値が 0.05 未満のものを有意差あり、0.05 以上 0.1 未満のものを有意な傾向あり ($p < 0.05$: 有意差あり、 $0.05 \leq p < 0.1$: 有意な傾向あり) とした。

3. 結果

(1) 入所者の概要 (表 1)

表 1 に示すように、回答者 81 人中、女性 72 人

(88.9%)、男性 9 人 (11.1%) であり、そのうち死別経験者は 51 人 (63.0%)、死別未経験者は 30 人 (37.0%) であった。死別経験者は、女性 48 人 (94.1%)、男性 3 人 (5.9%) であり、女性が 9 割以上であった。死別未経験者は、女性 24 人 (80.0%)、男性 6 人 (20.0%) であった。平均年齢は、死別経験者 85.5 歳 (女性 85.8 歳、男性 81.0 歳)、死別未経験者 80.7 歳であった。年齢構成は、死別経験者の 80~89 歳が 24 人 (47.1%) で最も多く、以下 90 歳以上が 17 人 (33.3%)、70~79 歳が 9 人 (17.6%)、70 歳未満が 1 人 (2.0%) の順であった。死別未経験者では 80~89 歳が 14 人 (46.7%) と最も多く、次いで 70~79 歳が 10 人 (33.3%)、90 歳以上が 4 人 (13.3%)、70 歳未満が 2 人 (6.7%) の順であった。女性の死別経験者 48 人のうち、80~89 歳が 23 人 (47.9%) と最も多く、次いで 90 歳以上が 16 人 (33.3%)、70~79 歳が 9 人 (18.8%) であり、70 歳未満はいなかった。男性の死別経験者は 3 人であった (70 歳未満、80~89 歳、90 歳以上がそれぞれ 1 人)。平均入所期間は、死別経験者 6.8 年 (男性 2.4 年、女性 7.1 年)、死別未経験者は 5.7 年であった。

日本肥満学会の基準 (BMI 18.5 未満は「やせ (低体重)」、18.5 以上 25.0 未満は「ふつう」、25.0 以上 30 未満は「肥満 I 度」) により体格を判定したところ、死別経験者の BMI は 21.1、死別未経験者は 21.8 であり、どちらも「ふつう」であった。死別経験者の女性は 21.0 で「ふつう」であり、男性は 17.7 で「やせ (低体重)」であった。平均介護度は、死別経験者 3.4 (女性、男性どちらも 3.3)、死別未経験者 3.0 であった。平均食事摂取状況は、死別経験者 86.4% (女性 86.6%、男性 73.3%)、死別未経験者 92.8% であった。

(2) 食事満足度調査結果 (表 2)

1) 死別経験の及ぼす影響

「7. いつもの食事は、雰囲気が出るいですか」の質

表 1 入所者の概要

項目	全体	死別未経験者	死別経験者	死別経験者 男性	死別経験者 女性
人数	81 人	30 人 (37.0%)	51 人 (63.0%)	3 人 (5.9%)	48 人 (94.1%)
性別	男：9 人 (11.1%) 女：72 人 (88.9%)	男：6 人 (20.0%) 女：24 人 (80.0%)	男：3 人 (5.9%) 女：48 人 (94.1%)	— —	— —
平均年齢	88.8 歳 ± 13.0	80.7 歳 ± 8.3	85.5 歳 ± 6.8	81.0 歳 ± 12.5	85.8 歳 ± 6.4
年齢構成：					
70 歳未満	3 人 (3.7%)	2 人 (6.7%)	1 人 (2.0%)	1 人 (33.3%)	—
70~79 歳	19 人 (23.5%)	10 人 (33.3%)	9 人 (17.6%)	—	9 人 (18.8%)
80~89 歳	38 人 (46.9%)	14 人 (46.7%)	24 人 (47.1%)	1 人 (33.3%)	23 人 (47.9%)
90 歳以上	21 人 (25.9%)	4 人 (13.3%)	17 人 (33.3%)	1 人 (33.3%)	16 人 (33.3%)
平均入所期間	6.4 年 ± 3.3	5.7 年 ± 3.4	6.8 年 ± 3.2	2.4 年 ± 3.0	7.1 年 ± 2.8
平均 BMI	21.3 ± 3.7	21.8 ± 3.7	21.1 ± 3.7	17.7 ± 3.1	21.0 ± 3.4
平均介護度	3.2 ± 1.2	3.0 ± 1.3	3.4 ± 1.1	3.3 ± 1.2	3.3 ± 1.1
平均食事摂取状況	88.8% ± 13.0	92.8% ± 9.8	86.4% ± 14.0	73.3% ± 25.2	86.6% ± 13.2

表2 食事満足度調査結果

質問内容	死別未経験者 (n=30)	死別経験者 (n=51)	検定結果	死別未経験者 男性(n=6)	死別経験者 男性(n=3)	検定結果	死別未経験者 女性(n=24)	死別経験者 女性(n=48)	検定結果	死別経験者 男性(n=3)	死別経験者 女性(n=48)	検定結果	死別女性 入所期間8年 未満(n=37)	死別女性 入所期間8年 以上(n=11)	検定結果
1. サービス期待序列	2.8±1.5	2.4±1.4	n.s.	3.5±1.5	3.5±1.7	n.s.	2.6±1.5	2.3±1.3	n.s.	3.5±1.7	2.3±1.3	n.s.	2.5±1.4	1.8±0.9	n.s.
2. サービス満足序列	2.7±1.5	2.5±1.4	n.s.	2.5±1.5	3.5±1.7	n.s.	2.8±1.5	2.4±1.4	n.s.	3.5±1.7	2.4±1.4	n.s.	2.4±1.4	2.6±1.5	n.s.
3. いつもの食事のおいしさ	4.4±0.8	4.6±0.6	n.s.	4.2±0.8	4.7±0.6	n.s.	4.5±0.8	4.5±0.7	n.s.	4.7±0.6	4.5±0.7	n.s.	4.5±0.7	4.7±0.5	n.s.
4. いつもの食事の楽しさ	4.2±0.9	4.5±0.7	n.s.	3.8±0.4	4.7±0.6	p<0.05	4.3±1.0	4.5±0.7	n.s.	4.7±0.6	4.5±0.7	n.s.	4.5±0.7	4.6±0.8	n.s.
5. いつもの食事の好物	4.2±0.8	4.2±0.9	n.s.	3.8±1.0	4.3±0.6	n.s.	4.3±0.8	4.2±0.9	n.s.	4.3±0.6	4.2±0.9	n.s.	4.2±0.8	4.2±1.3	n.s.
6. いつもの食事の待ち遠しさ	3.6±1.2	3.8±1.1	n.s.	4.0±1.3	3.0±1.0	n.s.	3.5±1.2	3.8±1.1	n.s.	3.0±1.0	3.8±1.1	n.s.	3.7±1.1	4.3±0.9	n.s.
7. いつもの食事の雰囲気	4.0±0.9	4.3±1.0	p<0.1	3.8±1.0	4.3±0.6	n.s.	4.0±0.9	4.3±1.1	n.s.	4.3±0.6	4.3±1.1	n.s.	4.2±1.1	4.4±1.0	n.s.
8. いつもの食事の量	4.4±1.0	4.4±0.8	n.s.	3.5±1.6	3.7±1.5	n.s.	4.6±0.6	4.4±0.7	n.s.	3.7±1.5	4.4±0.7	n.s.	4.4±0.6	4.6±0.9	p<0.1
9. 行事食のおいしさ	4.2±0.8	4.3±0.8	n.s.	4.0±0.6	5.0±0.0	p<0.05	4.3±0.8	4.3±0.8	n.s.	5.0±0.0	4.3±0.8	n.s.	4.2±0.9	4.6±0.7	n.s.
10. 行事食の楽しさ	4.4±0.8	4.5±0.8	n.s.	4.2±1.0	5.0±0.0	n.s.	4.4±0.8	4.5±0.8	n.s.	5.0±0.0	4.5±0.8	n.s.	4.5±0.8	4.6±0.9	n.s.
11. 行事食の好物	4.2±0.9	4.3±0.8	n.s.	4.0±0.9	4.7±0.6	n.s.	4.2±0.9	4.3±0.8	n.s.	4.7±0.6	4.3±0.8	n.s.	4.2±0.8	4.6±0.9	p<0.05
12. 行事食の待ち遠しさ	3.9±1.1	4.0±1.1	n.s.	3.8±1.3	3.7±1.5	n.s.	3.9±1.1	4.0±1.1	n.s.	3.7±1.5	4.0±1.1	n.s.	3.2±1.1	4.6±0.9	p<0.05
13. 行事食の雰囲気	4.2±1.0	4.3±0.9	n.s.	4.2±1.2	4.3±1.2	n.s.	4.2±1.0	4.3±0.9	n.s.	4.3±1.2	4.3±0.9	n.s.	4.3±0.9	4.4±1.0	n.s.
14. 行事食の量	4.3±1.0	4.3±0.9	n.s.	3.5±1.6	4.0±1.7	n.s.	4.5±0.7	4.3±0.8	n.s.	4.0±1.7	4.3±0.8	n.s.	4.3±0.7	4.4±1.2	n.s.
15. 行事食楽しさの序列	3.3±1.5	2.5±1.4	p<0.05	3.5±1.5	4.5±0.0	n.s.	3.3±1.5	2.4±1.4	p<0.05	4.5±0.0	2.4±1.4	p<0.05	2.4±1.4	2.3±1.4	n.s.
16. 行事食は特別な満足感	4.0±0.9	4.3±0.8	n.s.	3.7±0.8	4.7±0.6	n.s.	4.1±0.9	4.2±0.9	n.s.	4.7±0.6	4.2±0.9	n.s.	4.1±0.9	4.6±0.7	n.s.
17. 自分の誕生日は特別	4.1±0.9	4.1±0.9	n.s.	3.7±1.0	5.0±0.0	p<0.05	4.3±0.8	4.1±0.9	n.s.	5.0±0.0	4.1±0.9	p<0.1	4.0±0.9	4.5±0.9	p<0.1
18. 献立内容の把握	3.3±1.7	3.5±1.7	n.s.	3.7±1.5	1.3±0.6	p<0.1	3.2±1.7	3.7±1.6	n.s.	1.3±0.6	3.7±1.7	p<0.05	3.8±1.6	3.4±1.8	n.s.
19. うるさくて食事に集中できない	4.7±0.9	4.9±0.6	n.s.	4.8±0.4	3.7±2.3	n.s.	4.6±1.0	5.0±0.3	p<0.1	3.7±2.3	5.0±0.3	p<0.01	5.0±0.0	4.8±0.6	p<0.1
20. 嫌な事があり食事をしたくない	4.7±0.8	4.5±0.9	n.s.	4.3±1.0	4.0±1.7	n.s.	4.8±0.7	4.5±0.9	p<0.1	4.0±1.7	4.5±0.9	n.s.	4.5±1.0	4.7±0.6	n.s.
21. 体調悪くて食事をしたくない	4.7±0.7	4.6±0.8	n.s.	4.7±0.5	4.0±1.7	n.s.	4.7±0.8	4.6±0.7	n.s.	4.0±1.7	4.6±0.7	n.s.	4.6±0.8	4.5±0.7	n.s.
22. 体調不良時の個人対応*	4.6±0.5	4.5±0.6	n.s.	5.0±0.0	5.0±0.0	n.s.	4.4±0.6	4.6±0.5	n.s.	5.0±0.0	4.4±0.6	n.s.	4.5±0.5	4.3±0.8	n.s.
23. 食べ慣れた味付け、料理はうれしい	4.1±1.0	4.6±0.7	p<0.05	4.3±1.0	4.7±0.6	n.s.	4.0±1.0	4.6±0.7	p<0.05	4.7±0.6	4.6±0.7	n.s.	4.5±0.8	4.7±0.6	n.s.
24. 食べ慣れた味付け、料理の頻度	3.0±1.1	2.8±1.0	n.s.	2.8±1.5	3.0±1.0	n.s.	3.0±1.0	2.8±1.0	n.s.	3.0±1.0	2.8±1.0	n.s.	2.9±1.0	2.6±0.9	n.s.
25. 生きる喜びのための食事	3.9±1.1	4.3±0.8	n.s.	3.7±1.5	4.3±1.2	n.s.	4.0±1.0	4.3±0.7	n.s.	4.3±1.2	4.3±0.7	n.s.	4.2±0.7	4.6±0.8	n.s.
26. 食事で元気が出る	4.2±1.0	4.3±0.8	n.s.	3.7±1.5	3.7±1.2	n.s.	4.4±0.9	4.4±0.7	n.s.	3.7±1.2	4.4±0.7	n.s.	4.4±0.7	4.4±0.8	n.s.
27. 食事で明日への意欲がでる	3.9±1.1	4.2±0.8	n.s.	3.7±1.5	4.3±1.2	n.s.	3.9±1.0	4.2±0.8	n.s.	4.3±1.2	4.2±0.8	n.s.	4.2±0.8	4.5±0.9	n.s.
28. 食事で生きる喜びを感じる	4.0±1.2	4.4±0.8	n.s.	3.7±1.5	4.3±1.2	n.s.	4.0±1.1	4.4±0.8	n.s.	4.3±1.2	4.4±0.8	n.s.	4.3±0.8	4.6±0.8	n.s.
29. 食事不満の表現**	3.8±1.2	3.0±1.0	n.s.	1.0±0.0	5.0±0.0	n.s.	3.0±1.0	3.4±1.4	n.s.	5.0±0.0	3.7±1.1	n.s.	3.4±1.4	3.3±1.5	n.s.
30. 大切にされている	4.1±1.0	4.6±0.6	p<0.1	3.3±1.4	4.3±1.2	n.s.	4.3±0.8	4.6±0.6	n.s.	4.3±1.2	4.6±0.6	n.s.	4.5±0.7	4.9±0.3	p<0.05
31. 食事は期待通り満足	4.0±1.0	4.3±0.9	n.s.	3.5±1.0	4.7±0.6	n.s.	4.2±0.9	4.3±0.9	n.s.	4.7±0.6	4.3±0.9	n.s.	4.1±0.9	4.8±0.6	p<0.01
32. 施設入所で満足	4.3±1.0	4.8±0.5	p<0.05	3.7±1.5	5.0±0.0	p<0.1	4.5±0.8	4.7±0.5	n.s.	5.0±0.0	4.7±0.5	n.s.	4.7±0.6	5.0±0.0	p<0.05

※1 死別経験者 n=17、死別未経験者 n=10、死別未経験男性 n=1、死別未経験女性 n=9、死別経験女性 n=16、死別男性 n=1、死別女性 n=16、死別女性入所 8 年未満 n=10、死別女性入所 8 年以上 n=6

※2 死別経験者 n=3、死別未経験者 n=10、死別未経験男性 n=2、死別経験男性 n=1、死別未経験女性 n=3、死別経験女性 n=10、死別男性 n=1、死別女性 n=9、死別女性入所 8 年未満 n=7、死別女性入所 8 年以上 n=3

間に対して、死別経験者の方が明るいと感じている傾向であった ($p<0.1$)。「15. 行事食 (正月、誕生日、敬老の日、クリスマス) の中で満足感を感じ、楽しみにしている順番を教えてください。」の質問に対して、「誕生日が 1 番」と答えた人は、死別未経験者の方が有意に高かった ($p<0.05$)。「23. 子供の頃から食べ慣れてきた味付けや、料理が食べられたら、うれしいですか」の質問に対して、死別経験者の方が有意に高かった ($p<0.05$)。「30. 職員の方から大切にされていると感じますか」の質問では、死別経験者の方が死別未経験者よりも大切にされていると感じている傾向にあった ($p<0.1$)。「32. この施設に入所できて満足していますか」の質問では死別経験者の方が死別未経験者よりも有意に満足していた ($p<0.05$)。以上、死別経験者の方が死別未経験者よりも、全体として満足度が高いことが示唆された。

2) 死別経験の及ぼす影響における性差

「4. いつもの食事は、楽しいですか」の質問に対して、男性の死別経験者の方が有意に楽しいと感じていた ($p<0.05$)。「9. 今までの行事の食事はおいしいですか」の質問では、男性の死別経験者の方が有意にうれしいと満足していた ($p<0.05$)。「17. 行事食の中でも特に自分の誕生日の食事は、満足感、幸福感を感じる特別なものですか」の質問でも死別男性の経験者の

方が有意に特別なものとして評価していた ($p<0.05$)。「18. 献立内容が事前にわかって、食事をしていますか」の質問では、男性の死別未経験者の方が有意な傾向であった。「32. この施設に入所できて満足していますか」の質問では、男性の死別経験者の方が、有意な傾向で満足していた ($p<0.1$)。一方、「15. 行事食 (正月、誕生日、敬老の日、クリスマス) の中で満足感を感じ、楽しみにしている順番を教えてください。」の質問に対して、「誕生日が 1 番」と答えた人は、女性の死別未経験者の方が有意に高かった ($p<0.05$)。「19. 周りに咳き込む人や騒ぐ人がいて、食事に集中できないと思うことがありますか」の質問に対して、女性の死別経験者の方が有意な傾向で「気にしていない」評価であった ($p<0.1$)。「20. 嫌なことがあり、食事をしたくないと思う事がありますか」の質問では、女性の死別未経験者の方が有意な傾向で思わないと評価していた ($p<0.1$)。「23. 子供の頃から食べ慣れてきた味付けや、料理が食べられたら、うれしいですか」の質問に対して、女性の死別経験者の方が有意に高かった ($p<0.05$)。以上、死別経験者において性差が認められ、概して男性の死別経験者の方が女性の死別未経験者よりも満足度は高いことが示唆された。

3) 女性の死別経験者の満足度への入所期間の影響

「8. いつもの食事の量は満足のいく量ですか」の質問に対して、入所期間8年以上の方が満足している傾向であった ($p<0.1$)。「11. 今までの行事の食事は、好きなものが食べられていますか」の質問に対して、入所期間8年以上の方が有意に好きなものが食べられていると感じていた ($p<0.05$)。「12. 今までの行事の食事は待ち遠しいですか」の質問でも、入所期間8年以上の方が有意に待ち遠しいと感じていた ($p<0.05$)。「17. 行事食の中でも特に誕生日の食事は、満足感、幸福感を感じる特別なものですか」の質問では、有意な傾向で入所期間8年以上の方が「誕生日は特別なもの」として評価していた ($p<0.1$)。「19. 周りに咳き込む人や騒ぐ人がいて、食事に集中できないと思うことがありますか」の質問では、入所期間8年未満の方が気にしていない傾向であった。 ($p<0.1$)「30. 職員の方から大切にされていると感じていますか」の質問では、入所期間8年以上の方が有意に大切にされていると評価していた ($p<0.05$)。「31. この施設の食事は、期待していたとおり満足していますか」の質問では、入所期間8年以上の方が有意に高い評価で満足していた ($p<0.01$)。「32. この施設に入所できて満足していますか」の質問でも、入所期間8年以上の方が8年未満より有意に満足していた ($p<0.05$)。以上、女性の死別経験者においては、入所期間8年以上の方が、入所期間8年未満よりも概して満足度は高いことが示唆された。

4. 考察

32項目の食事満足度調査結果において、①死別経験の及ぼす影響、②死別経験者の満足度における性差、③死別経験者の満足度に及ぼす入所期間（8年未満と8年以上）の影響について検討した。その中で、まず、いつもの食事に関する質問である「4. いつもの食事は、楽しいですか」、「7. いつもの食事は、雰囲気が明るいですか」、「8. いつもの食事の量は満足のいく量ですか」の3質問項目の結果について考察した。死別経験者は、死別未経験者よりも有意な傾向で食事の雰囲気が明るいと感じており、死別経験者の男性は、死別未経験者の男性より有意に食事は楽しいと感じていた。また、死別経験者女性の入所期間8年以上が8年未満より有意な傾向で食事は満足のいく量と感じていた。岡林らは、配偶者と死別した高齢者が精神的健康度を維持するためには死別前に築かれた人間関係より、むしろ死別後に周囲から情緒的支援を得られるか否かが重要であると報告している¹⁰⁾。同年代で、死別経

験者という同じ境遇の入所者や、またお世話をしてくれる施設職員がいる大勢での食事の場は、それまでの家庭での食事とは違った雰囲気や明るさを感じ、死別による悲しみを忘れさせ、満足度を高める結果に結びついたのではないかと推測された。

次に、行事食に関する質問である「9. 今までの行事の食事はおいしいですか」、「11. 今までの行事の食事は、好きなものが食べられていますか」、「12. 今までの行事の食事は待ち遠しいですか」の3質問項目の結果について考察した。男性では死別経験者の方が未経験者より有意に行事食はおいしいと感じており、死別経験者女性では、入所期間8年以上が8年未満より有意に行事食では好きなものが食べられていて、待ち遠しいと感じていることがわかった。行事食の食事満足度は、男性は死別経験により高まり、女性は死別経験があり、かつ入所期間が8年以上と長くなると高くなることが示唆された。

三番目に、誕生日に関する質問である「15. 行事食（正月、誕生日、敬老の日、クリスマス）の中で満足感を感じ楽しみにしている順番を教えてください」と「17. 行事食の中でも特に自分の誕生日の食事は、満足感、幸福感を感じる特別なものですか」の2項目の結果について考察した。行事食の中で、死別経験者の女性は、死別未経験者の女性ほど誕生日を1番の楽しみと感じていない事がわかった。これは、死別経験者の女性が誕生日のみにこだわらず、他の行事食も同じように楽しみにしていることが反映された結果と考えられた。逆に男性は、死別経験による有意な差はなく、死別経験者の中では、男性が女性より有意に楽しみに感じていることが示された。自分の誕生日への思いは、男性では死別経験者の方が死別未経験者より有意に高く、死別経験者では男性の方が女性より有意に自分の誕生日は特別と感じていた。女性の死別経験者では、入所期間8年以上が8年未満より有意な傾向で誕生日は特別と感じていた。このことから男性は死別経験があることによって、女性は死別経験がありかつ入所期間が8年以上と長くなると自分の誕生日は特別なものと感じるようになることが示唆された。

四番目に、「18. 献立内容が事前にわかって食事をしていますか」の質問では、男性の死別未経験者は、男性の死別経験者よりも有意な傾向で献立内容を把握していた。死別経験者では女性の方が男性より献立内容を有意に把握しており、性差が認められた。死別経験者の男性がほとんど献立を把握していない理由として、入所期間が2.4年と他の入所者に比べて短いことから、献立を把握する習慣ができていないこと、または、もともと献立把握に興味を持っていないことなど

が推測された。「19. 周りに咳き込む人や騒ぐ人がいて、食事に集中できないと思うことがありますか」の質問では、女性では、死別経験者の方が死別未経験者より有意な傾向で気にしていないこと、死別経験者では、女性の方が男性よりも有意に気にしていないことが明らかになった。また女性の死別経験者では、入所期間 8 年未満が 8 年以上より有意な傾向で気にしていないことが示された。女性は概して咳き込む人や騒ぐ人に対して寛容であるのに対して、男性の死別経験者は、敏感に反応する傾向があり、静かに食事に集中したいと希望していることが推測された。「23. 子供の頃から食べ慣れてきた味付けや、料理が食べられたら、うれしいですか」の質問では、死別経験者の方が死別未経験者よりも有意にうれしいと感じており、その中でも女性の死別経験者が有意にうれしいと感じていることが明らかになった。男性とは異なり、女性は死別経験をするによって、食べ慣れた味付け、料理をうれしいと感じるようになることが示唆され、性差が認められた。

五番目に、施設に関する質問である「30. 職員の方から大切にされていると感じていますか」、「31. この施設の食事は、期待していたとおり満足していますか」、「32. この施設に入所できて満足していますか」の 3 項目の結果について考察した。死別経験者は、死別未経験者よりも有意に大切にされていると感じており、施設入所で満足していると感じていることが示された。男性では死別経験者の方が有意な傾向で施設に入所できて満足していた。女性の死別経験者において、入所期間 8 年以上は、8 年未満よりもこの 3 項目すべてにおいて有意に満足していることが明らかになった。男性では死別経験者の方が施設に入所できたことに満足しているが、女性では死別経験の有無に関係なくどちらも高いスコアで満足していた。また、女性の場合は、死別経験がありかつ入所期間が長くなると満足度がさらに有意に高まることが示唆された。岡村¹¹⁾は、配偶者と死別した女性は生計維持の問題が生じると報告している。配偶者と死別した女性は施設に入所し、長い年月を過ごしながらかつ終の棲家として安住の場を得られた安堵感から満足度が高まったのではないかと推測された。澤田¹²⁾は、死別後の精神的つらさは「寂しさ」であり、自分の思いを聞いてくれる友人を多数持つことが大切であると報告している。死別経験者は、同じ入所者達とコミュニケーションをとり、また施設職員のお世話を受けることで、「寂しさ」が緩和されたことにより、死別未経験者よりも有意に高い満足度を示したのではないかと推測された。

男性において死別経験の有無のみで有意差があった

のは、「4. いつもの食事は、楽しいですか」、「9. 今までの行事の食事はおいしいですか」の質問であった。どちらも死別経験者の方が有意に楽しい、うれしいと満足していた。配偶者と死別した男性の問題として、岡村¹¹⁾や、山田ら¹³⁾は、毎日の食事や掃除などの家事遂行上の問題が生じると報告している。また、坂口は、死別前後で不規則な食事や、朝の欠食、栄養のバランスの無関心の増加が有意に認められたと報告している¹⁴⁾。これらのことから男性の死別経験者は、いつもの食事や、行事食に対して、男性の死別未経験者よりも満足度が高くなったのではないかと推測された。

女性において死別経験の有無のみで有意な傾向があったのは、「20. 嫌なことがありますか」の質問であった。死別経験者の方が、未経験者より有意な傾向でスコアが低かった。男性においては死別経験の有無では有意差がなかったことから、女性特有の性差の問題であることが示唆された。岡村らは、夫と死別後悲嘆状態にあった女性が立ち直るまでの期間は、四十九日を待たずにすぐ立ち直った者から、死別後 4～5 年を経ても立ち直っていない者がいたこと、夫婦関係が良好であった場合は悲嘆が大きく、また不安特性が高い場合は立ち直るまでに長い期間を必要としたことを報告している¹⁵⁾。死別経験者の女性は、まだ悲嘆状態から完全に立ち直っていない可能性があり、その影響が満足度の有意な傾向での低下に結びついたのではないかと推測された。このことは前報⁹⁾同様、食事満足度が死別後の女性の悲嘆ケアの必要性の指標となり得ることを示唆しており、今後の研究の発展が期待される。

5. 結論

死別経験者は、「食べ慣れた味付け、料理はうれしい」、「施設入所で満足」において、死別未経験者よりも有意に高いスコアを示した。死別経験者の男性は、「いつもの食事の楽しさ」、「行事食のおいしさ」、「自分の誕生日は特別」において、死別未経験者の男性よりも有意に高いスコアを示した。死別経験者の女性は、「食べ慣れた味付け、料理はうれしい」において死別未経験者の女性よりも有意に高いスコアを示した。死別未経験者の女性は、「行事食の中で自分の誕生日を 1 番楽しみにしている」において死別経験者の女性よりも有意に高いスコアを示した。男性の死別経験者は、「行事食の中で一番楽しみにしているのは誕生日である」において、女性の死別経験者よりも有意に高いスコアを示した。女性の死別経験者は、「献立内容の把握」、「うるさくて食事に集中できないことはない」の 2 項目において男

性の死別経験者より有意に高いスコアを示した。女性の死別経験者のうち、入所期間が8年以上の入所者は、「行事食で好きなものが食べられている」、「行事食は待ち遠しい」、「職員の方から大切にされている」の3項目において、入所期間8年未満の入所者より有意に高いスコアを示した。以上のことから、配偶者との死別経験は、施設入所高齢者の食事満足度と主観的QOLに有意な影響を及ぼしていることが示唆された。

本研究により、高齢入所者の食事満足度に影響を及ぼす要因は幅広く存在し、その中の1つに配偶者との死別経験が影響していることが確認された。今回の調査では、死別後の年数を具体的に把握することができなかったため、死別後の年数に伴うより詳細な変化を検討することができなかった。また、死別経験の性差については、どの施設でも男性の死別経験者が少ないため、地道な調査の積み重ねが必要である。今後の高齢入所者の食事満足度の研究において、これらの点を明らかにすることにより、個別的な高齢者の主観的QOLを高くかつ維持することに寄与して行きたい。

謝辞

調査に快くご協力いただきました特別養護老人ホームの施設職員の皆様、そして入所者の皆様にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。

引用文献

- 1) 財団法人厚生統計協会：厚生指標 国民の福祉の動向, Vol.57, No.11, 113, 2010.
- 2) 財団法人厚生統計協会：厚生指標 国民衛生の動向, Vol.57, No.9, 69-70, 2010.
- 3) 河合千恵子：配偶者との死別後における老年期女性の人生, 老年社会学, Vol.20, 35-45, 1984.
- 4) 河合千恵子：老年期における配偶者との死別に関する研究 死の衝撃と死別後の心理的反応, 家族心理学研究, Vol.1, No.1, 116, 1988.
- 5) 岡本清子：高齢期における配偶者の死別と孤独感 死別後経過年数別にみた関連要因, 老年社会科学, Vol.14, 73-81, 1992.
- 6) 岡本清子：配偶者との死別に関する縦断的研究, 老年社会科学, Vol.15, 157-165, 1994.
- 7) 寺崎明美：他：配偶者喪失における高齢者の悲嘆とそれを左右する要因, 日本公衆衛生雑誌, Vol.45, No.6, 512-524, 1998.
- 8) 白川あゆみ：過疎地域に暮らす配偶者を亡くした女性高齢者の死別後の体験, 日本地域看護学会誌, Vol.11, No.2, 87-92, 2009.
- 9) 吉田真弓：他：特別養護老人ホーム入所者の食事満足度に影響を及ぼす配偶者との死別経験についての検討, 藤女子大学 QOL 研究所紀要, Vol.5, No.1, 27-34, 2010.

- 10) 岡林秀樹：他：配偶者との死別が高齢者の健康に及ぼす影響と社会的支援の緩衝効果, 心理学研究, Vol.68, No.3, 147-154, 1997.
- 11) 岡村清子：高齢期における配偶者との死別—死別後の家族生活の変化と適応—, 社会老年学, Vol.36, 3-14, 1992.
- 12) 澤田愛子：高齢期における配偶者死別後の悲嘆の問題, 死の臨床, 23(1), 33-35, 2000.
- 13) 山田皓子：他：配偶者との死別した独居男性高齢者の悲嘆と生活の再構築, 日本公衆衛生学会総会抄録集, Vol.68, 464, 2009.
- 14) 坂口幸弘：《焦点1》気づきと行動変容 グリーフケア「わいわい食堂」の試みと評価, 日本保健医療行動科学会年報, Vol.25, 21-30, 2010.
- 15) 岡村清子：他：高齢者女性における配偶者喪失後の役割移行と適応, 老年社会科学, Vol.9, 53-70, 1987.

参考文献

- 1) 杉本知子：他：配偶者死別へのコーピングの検討 悲嘆反応がみられる高齢者2名の事例分析, 香川医科大学看護学雑誌, Vol.7, No.1, 163-170, 2003.
- 2) 東清巳：他：男性高齢者の配偶者喪失後におけるアイデンティティの揺らぎと対処, 熊本大学医学部保健学科紀要, No.1, 47-56, 2005.
- 3) 桂晶子：他：在宅看護終了後の家族介護者の達成感・満足感および空虚感と死別前要因との関連, 宮城大学看護学部紀要, Vol.9, No.1, 1-9, 2006.
- 4) 泉敬子：他：高齢者の意識調査Ⅱ—“よく生きる”についての考察—, 生活科学研究, No.28, 195-207, 2006.
- 5) 桂晶子：他：死別を体験した高齢介護者の介護実施中と介護終了後の生活状況とその変化, 宮城大学看護学部紀要, Vol.10, No.1, 27-35, 2007.
- 6) 桂晶子：女性介護者の要介護高齢者死別後におけるソーシャルサポートと抑うつとの関連, 日本看護学会論文集 地域看護, Vol.37, 103-104, 2007.
- 7) 野竹内晶子：他：妻との死別を克服し新たな一歩へ, パワーリハビリテーション, No.7, 114-115, 2008.
- 8) 岡本双美子：他：同居家族との死別を体験した在宅高齢者の閉じこもりについての比較検討—性差による比較—, 日本地域看護学会誌, Vol.11, No.2, 31-37, 2009.
- 9) 宮林幸江：他：地域高齢者における主観的幸福感と死別悲嘆反応の関連, 日本看護研究学会雑誌, Vol.32, No.3, 227, 2009.
- 10) 水野智実：他：独居男性高齢者への自立支援プログラムの開発と評価(2報)：死別後の男性独居高齢者の心の変化と対応, 日本看護科学学会学術総会講演集, Vol.29, 341, 2009.
- 11) 遠山寛子：他：在宅高齢者を看取った家族の悲嘆に対するケア内容の検討, 家族看護学研究, Vol.15, No.3, 18-19, 2010.

- 12) 小泉早苗 他：配偶者の死別をきっかけに維持期から逸脱した高齢糖尿病患者の生活の再構築にむけての援助, 糖尿病, Vol.49, No.8, 695, 2006.
- 13) 鮎川昌代：高齢者の対象喪失回復過程への援助の検討, 日本看護科学学会学術集会講演集, Vol.28, 188, 2008.
- 14) 針金まゆみ 他：老年期における死に対する態度尺度 (DAP) 短縮版の信頼性ならびに妥当性, 厚生 の指標, Vol.56, NO.1, 33-38, 2009.
- 15) 梅崎薫 他：高齢期における配偶者死別と人的交流の変化, ストレス科学, Vol.3, No.1, 54-60, 1998.
- 16) 寺崎明美 他：高齢女性の配偶者死別における悲歎と影響要因, 老年精神医学雑誌, Vol.10, No.2, 167-180, 1999.
- 17) 宮林幸江：日本人の死別悲歎 性別について, 茨城県立医療大学紀要, Vol.10, 55-63, 2005.
- 18) 河合千恵子：老年期における配偶者との死別に関する研究 その2 死別後の適応とそれに影響する諸要因の効果, 家族心理学, Vol.2, No.2, 119-129, 1988.

Effects of being widowed on contentment with meals among elderly residents of nursing homes (the second report)

Mayumi YOSHIDA

(Department of Nutrition, School of Nursing and Nutrition, Tenshi College)

Michiko YAMADA

(Jikeikai Nursing Home for the Aged)

Noriko KAKUBARI

(Division of Nutrition, Jikeikai Hospital)

Yoshihiro FUJII

(Department of Food Science and Human Nutrition, Faculty of Human Life Science, Fuji
Woman's University)